

竜王北中学校 学校関係者評価書（前期）

平成 27 年 7 月 17 日（金）
竜王北中学校関係者評価委員会作成

第 1 回 学校関係者評価委員会

実施日：平成 27 年 7 月 17 日（金）午後 5 時 15 分～

会 場：竜王北中学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

石合 廣光 中島 民雄 興石 寛 小尾 裕子
岡月 美和 小泉 洋子

（学校側）

清水 千春 興石 信 高橋 光明

I 学校側から提案された内容

- ・平成 27 年度自己評価書（前期）
- ・平成 27 年度自己評価シート集計結果表
- ・平成 27 年度第 1 回中学生用アンケート集計結果表

II 協議された主な内容

- ・平成 27 年度自己評価書（前期）が本校の実態を踏まえ、改善策が示されているかについて
- ・本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善内容について

< 学校関係者評価書 >

I 全体評価

- ・肯定的な回答（A と思う B ややと思う の合計）がほぼ全項目（45 項目中 40 項目）で 90% を超え、教職員が高い意識で教育活動に取り組んでいる。
- ・本校のオリジナル項目としている「習得した知識・技能を活用する授業」、「小中連携を生かした教育活動」、「読書に積極的に取り組むような活動」、「学校行事に進んで取り組むような指導」、「強化週間等を活かした指導」、「生徒が発表活動に主体的に取り組むような指導」については肯定的な回答が 90% を超えている。
- ・肯定的な回答が 80% を下回る項目は、「個に配慮した授業」、「教材・教具等を活用した授業」、「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」、「保護者・地域の願いを聞く等、情報収集の機会の確保」のみであった。
- ・以上の点から、平成 27 年度自己評価書（前期）については、概ねこの通りでよいと考える。
- ・提示のあった改善策・手立てをより具体的なものとして実行して欲しい。

Ⅱ 特 徴

- ・アンケート結果から、生徒が前向きに学校生活を送っている様子が伝わってきた。また、教職員も教育活動に高い意識を持ち、向上心をもって日々の業務や諸活動にあたっている様子がうかがえた。また、生徒を温かく迎える雰囲気が学校として醸成されている。本当にありがたいことである。
- ・本校の生徒は、地域の人たちにあいさつをよくする。以前は、地域の人が声をかけてそれに応えるという生徒が多かったが、今は生徒の方からあいさつをしてくれる。大きな変化である。これも、日頃の教職員の指導の成果である。今後も大事にしてほしい。
- ・教職員の健康管理については、引き続き、ストレスをためない職場づくりに傾注してほしい。話し相手がいる、聞いてくれる相手がいるということが大事である。管理職が面談等を通して悩みを聞くと同時に、教職員間の横のつながりをさらに育ててほしい。
- ・生徒用アンケートについては、結果を活用するという観点から、生徒に還元することが大切である。結果を示すことで、一人一人が自分は他の生徒と比べてどうであるかを相対化できる。それにより、自分の課題を把握し、さらに頑張っていこうという意欲が出てくるのではないかな。ぜひ、結果を何らかの方法で生徒に知らせてほしい。→1学期中に学校通信にまとめて配付したい。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・竜王北中学校には、竜王北小、竜王小、竜王東小の3校から生徒が入学する。特に、竜王小と竜王東小からは少ないので、入学後の生活を心配している生徒も少なからずいる。そうした不安からか不登校に陥るケースもあるのではないかな。現在、北小との連携に取り組み、着実な成果を上げていると思うが、今後は、竜王小、竜王東小との連携をさらに充実させるとともに入学後のサポートをいかに手厚くしていくか、小学校への出前授業、小中教職員の授業の相互参観、校内TT体制の工夫、支援員増員の要望等を考えていく必要がある。
- ・明生学園については竜王小と竜王東小出身の生徒と保護者は知らない。学区にある施設として全生徒、保護者が共通理解をしていく必要がある。伝え方に配慮しながら、新入生説明会や入学式の後など、保護者に説明する機会をもつのも一つの方法だろう。
- ・開校から四半世紀が経過し、開校当時に比べると、生徒数が大幅に減少してきている。今後もこの傾向は続くであろう。学校が子ども達に豊かな体験と活動を提供していくためには、これ以上の生徒数の減少は避けたい。現在、双葉・横町地区の生徒は選択により竜王北中に就学できるようになっているが、今後はさらなる学区の弾力化と見直しを図っていく必要があるのではないかな。

※特記事項

- ・なし

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長） 氏名：石合 廣光 印